



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

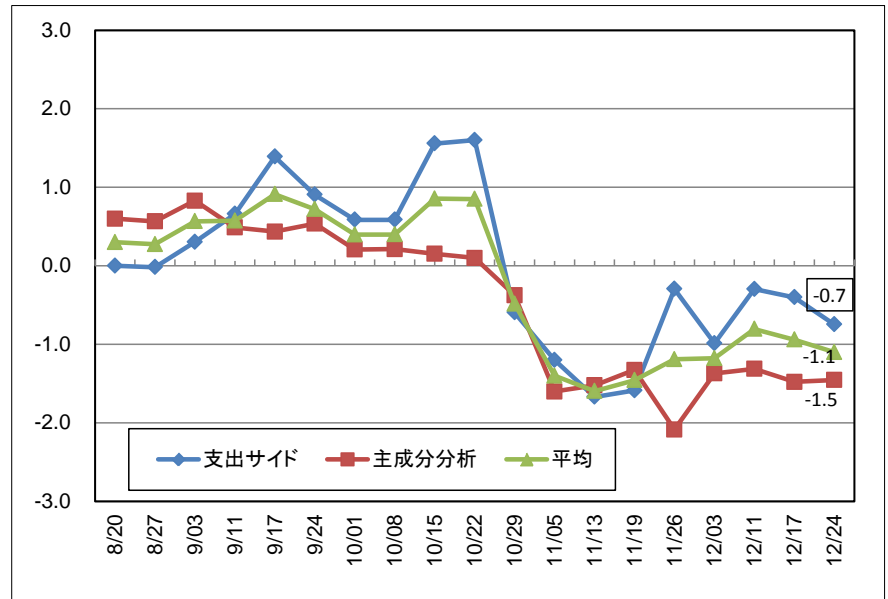
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2012年12月24日)

ポイント

- ▶先週(12/17-12/21)は、11月の貿易統計、10月の毎月勤労統計(確報値)、全産業活動指数、景気動向指数(改定値)、建設総合統計が更新された。
- ▶これらの月次データは、公的固定資本形成、純輸出及び雇用者報酬の予測に影響を与える
- ▶10月の公共工事は5ヵ月ぶりの前月比プラス。この結果、10-12月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から上方修正された。
- ▶11月の貿易赤字は前月比+40.2%拡大した。10-12月期の実質純輸出の予測値は先週から下方修正された。
- ▶対中輸出は引き続き厳しいが、中国を除く対アジア輸出は復調の兆しを見せており、輸出底打ちを期待できる好材料である。
- ▶今週のCQM(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を、内需は横ばいとなるが、純輸出は小幅縮小するため前期比年率-0.7%と予測。先週(-0.4%)から小幅下方修正された。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q4 (%、前期比年率換算)



＜対中輸出は引き続き厳しいが、中国を除く対アジア輸出は復調の兆し＞

先週(12/17-12/21)は、11月の貿易統計、10月の毎月勤労統計(確報値)、全産業活動指数、景気動向指数(改定値)、建設総合統計が更新された。先週更新された月次データは、公的固定資本形成、純輸出及び雇用者報酬の予測に影響を与える。

10月の公共工事は前年比+16.0%増加し9ヵ月連続のプラス。季節調整値(筆者推計)は前月比+0.8%増加し、5ヵ月ぶりのプラス。実績値は事前予測を上回ったため、10-12月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から上方修正された。

11月の貿易収支(季節調整済値)は21ヵ月連続の赤字となり、赤字幅は前月比+40.2%大幅拡大した。この結果、10-11月期平均貿易赤字は7-9月期平均比+17.5%拡大しており、10-12月期も純輸出は前期に引き続いて成長を抑制するであろう。11月実績は輸出入ともに事前予測を上回ったが、輸入の上方乖離幅が輸出のそれを上回ったため、10-12月期の実質純輸出の予測値は先週から下方修正された。対中国貿易は引き続き厳しい。11月の対中輸出は前年比-14.5%と前月(-11.6%)から再び拡大しているが、対アジア輸出の減少幅は縮小している。すなわち、中国を除く対アジア輸出は復調の兆しを見せており、輸出底打ちを期待できる好材料である。

先週更新された月次データにより、公的固定資本形成の予測値は先週から上方修正されたが、純輸出の予測値は下方修正された。このため、今週のCQM(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を、内需は横ばいとなるが、純輸出は小幅縮小するため前期比年率-0.7%と予測。先週(-0.4%)から小幅下方修正された。この結果、2012暦年の実質GDP成長率を+2.0%(先週：+2.0%)、また2012年度を+1.1%(先週：+1.2%)と予測している。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550